

あけましておめでとうございます

府民のいのちと健康を守るために、大幅賃上げ・大幅増員をめざし、ストライキを構え、みんなで力をあわせよう

2024年がスタートしました。

1月1日に発生した能登半島地震は、石川県を中心とした北陸地方に大きな被害をもたらし、未だにその全貌は明らかになっていません。被災された方々、非難所で不安な日々を送られている方々に心からお見舞い申し上げます。

さて、コロナが5類に変わって、世間ではコロナ禍は過去の話になっていますが、インフルエンザの急増とあわせて、現場は人員不足も相まって、さらに大変になっているのではないのでしょうか。府民のいのちと健康を守る日常業務の奮闘に敬意を表します。



消費者物価指数は鈍化していると言うものの、物価高に伴う賃上げがされず、実質賃金は19ヶ月連続のマイナス（10月速報）となっています。私たち、医療・介護労働者はそもそも賃上げがほとんど行われず、周回遅れとなっています。これ以上、仲間を辞めさせないために、社会的な役割にふさわしい賃金の水準にしなければいけません。それは、わたしたち自らの暮らしを守るためだけでなく、府民のみなさんのいのちと健康を守るうえでも重要です。すべての加盟組織でストライキを構え、月額5万円以上・時給330円以上の賃上げ実現にむけて奮闘しましょう。

今、政府はコロナ禍の反省や総括をすることなく、ベッド削減をすすめる地域医療構想の具体化を再開し、それに伴う看護師をはじめとした医療従事者数抑制を検討しています。私たちの先輩がナースウェーブ運動で作りに上げてきた「看護師確保法基本指針」の改定もそうです。「看護師の独自性・専門性」を削除し、「効率化と生産の向上」に書き換え、地域医療構想の推進の施策のツールとして利用する内容です。

ガザ地区の紛争が始まって、2ヶ月以上が経過し、痛ましいニュースが現地から発信されています。私たちは、「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」と誓った労働者として、いかなる戦争・紛争に反対します。

2月には京都市長選挙が行われます。京都医労連の顧問弁護士でもある福山和人市長を実現し、誰のいのちも大切される京都市を実現しましょう。

きたる2024年春闘では、府民のいのちと健康を守るために、何としても大幅賃上げ、医師・看護師・介護職員等の大幅増員、権利としての社会保障の実現、すべての新入職員を労働組合に迎え、闘いながら組合員を増やし、1万人医労連実現にむけて奮闘しましょう。今年もよろしくお祈りします。